

# 夕刊 磐城時報

二十日  
印刷所 加納活版所  
印刷人 岡田弘成  
発行所 磐城時報社  
一版金貳拾圓 一月金貳拾圓  
廣告料 一行十二字 五字五錢  
日刊(日曜祝祭日) 翌日休刊

## 林銑十郎大將を迎へ 平市で講演會

### 二十五日頃來平

前首相林銑十郎大將は来るに接して發刊してゐる二十五日頃午後一時五十分天皇中心主義の雜誌である平澤著列車で來平する事に當日は長瀬社長以下數名林大將の隨行員として來平する平市ではこの日講演會をやる筈である。

## 銀行營業

大晦日に  
開催林大將は約二時間に亘つて『長期戦に對する國民の覺悟』と題する講演を行ふ筈である。同講演會の後石城郡銀行組合では來平一援である月刊雜誌『經國』三月三十日は日曜日であるが本郡鹿島村出身長瀬謙氏 舊大晦日に當るので平常通りが社長で實際は林大將の應じ執務する事になつた。

## 鷺津中將來平

### 戦死者遺族を訪ふ

#### 靈前に供物を贈る

第二師團留守師團長鷺津中將は十一日午後六時十二分着列車で來平、住吉屋本店に一泊の上十二日午後七時から平市出身戦死者丸山芳春伍長以下四氏の遺家族を訪ひ鄭重な供物を靈前に贈り弔問、八時半平澤發列車で郡山市に向つた。

## 鎌田町區民 道路貫通陳情

市内鎌田區では新川町から第三小學校前を経て鎌田町に至る町道が鎌田町まで貫通してゐないので通行人の不便が多いため十二日區民代表岡田千藏氏外數名平市役所を訪れ右工事の十三年度中に實施するやう豫算に計上方を陳情した。

## 五圓を獻金

市内に至る町道が鎌田町まで貫通してゐないので通行人の不便が多いため十二日區民代表岡田千藏氏外數名平市役所を訪れ右工事の十三年度中に實施するやう豫算に計上方を陳情した。

## 入營兵を装つて 餞別を詐取する男

### 植田署に擧げらる

九日泉村で暴動不審の男を、横田駐在巡査が發見取調べた。懐中から千人針と署名止の古物商宣風奎、安た、前及び同町倉庫にある整城炭礦ボイラー古鐵材一萬貫と同礦より千八百圓で拂下げる約束をしたが金が無いから出して貰ひ度い騙して千八百圓を詐取し逃走、三浦は五日相馬郡原町で、三浦は三ヶ月後郡山市で反物行商をしてゐる處を平澤の手配で捕はれたものである。

## 流行ノ時期

權威あるチプス内服ワクチンの服用をおす、め致します

## チプス内服ワクチン

大人 一人分 二〇錢  
小兒 八大人ノ半量

本劑内服後一ヶ月位有効ナルモ流行ノ兆アル時ハ更ニ服用ヲ重ネルノガヨリ安全デス  
三共株式會社  
代理店 關内藥局  
電話四〇番

## 平市の腸チブス患者 今朝廿一名に達す

### 疑似患者二名も發見す

平市の腸チブスは蔓延の兆と母親つめさんは搜索願。役所では協力し豫防に留心してゐる事昨報の如くであるが、十一日中に又々新患者發生し十二日朝には合計二十一名に達した。尚ほ十一日平署で行つた検病戸口調査に於て三名の疑似患者發生したので警戒中である。

## 一人息子

### 老いた母

宮城縣加美郡中新田町宇南町魚行商齋藤兼廣(五〇)は去る三日朝齋藤魚行商に出たまゝ行衛を命じられたが酒癖が悪いので或ひは昨今の寒さに凍死したのではないかと

## 上海から南京まで

### 木村守江氏奮戦記

(其四) 四五日前も佐藤主計少尉(佐藤海軍大學校長息)が菜の花をつんで來て内地の春を思ひ出すやうに僕にくれた、次からくへんこの花を廻して内地の思ひ話に行軍中疲れを忘れたこともある。然し朝方の寒さにはひどい、毎日内地にも稀に見る深い霜と水で一面にござされてゐる、寝てゐる中は寒いが、この深い霜を踏んで行軍を始める朝方は特に夜明より太陽の昇る頃、氣持のよいことは何んとも言はれぬよい氣持である。朝霧が習慣となつて

北支から  
私は相變らず元氣です。○月○日○縣を出發、同地東南方約五軒の地點○河の下流に架橋すべく前進せるに敵は對岸に堅固な塹壕をめぐらしをり○銃、○銃等で頑強に抵抗して退却せず彈丸は雨の如く飛んで來る中を敵前架橋を決定しました、全く皇軍の勢力を貫く威が有ります。翌日は完全に皇軍の占領する處となり私共も同地に夜營待機してゐます。支那兵の屍散在し戦禍、敗慘の巷は見る影もない有様です。住民は食ふに食なく寒さにふるへて乞食同様で我々の情で

考へられぬことである。先づ井上消防先生にはひどく怒ることだろうと仲間同志で馬鹿話をしながら民家は殆んど全部支那兵によつて荒されてゐる。食物は勿論着物又は貴重品などあるものなら何處迄も破つてある、よくも荒したと思はれる位剛か隊が馬賊の風をくんでゐるらしい。平氣で自分の同一國民を苦しめてゐる、ひどい所に行くに荒したて後で食物が何んにも何せ大行李糧食運搬部などは到底追付けない急迫する爲めに食ふ爲めには

是非とも○○しなければならぬ、○○○○○の南京米に野菜である。然し困ることに醤油と味噌もないのである、家に居たら食はれそうもなく味もなぬものを食はねばならぬ、南京米にも始めは實に困つたが近頃はめか大した苦情も出なくなつた、別に大した腹を悪くするものも居ない。飲料水は相變らずクワリクワリと水である、揚子江に近くになるとクワリクワリと水が澄んでゐる。近頃は澄んでゐる。これに支那の風土に慣れた爲めか可成嚴重な小生の命もかかずに生水をそのまゝ服用するものが

つてをりませぬ。  
北支、土肥原部隊  
鈴木正嘉  
▲墜道で慘死 上遠野村瀧土工橋本市三(三九九)は八日午後二時頃同村と鮫川疏水工事の墜道工事場で互に元氣をつけ合慘死した。

